



【infoCMSご契約者様限定】

Webサイトの記事作成を劇的に加速する！ 仕事で使えるAI活用方法

株式会社インフォネット

infoNet®
ONE-STOP SERVICE.
infoNet inc. All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

本日のスケジュール

■開催概要

日時：2024年1月30日(火) 14:00～14:30

内容：Webサイトの記事作成を劇的に加速する！仕事で使えるAI活用方法

主催：株式会社インフォネット
カスタマーサクセス担当

■タイムスケジュール

- ・ 14：00～14：05 はじめに
- ・ 14：05～14：25 Webサイトの記事作成を劇的に加速する！仕事で使えるAI活用方法
- ・ 14：25～14：30 質疑応答（Q&Aにて随時質問を承ります）

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- 仕事で使えるAIライティングツール
- まとめ
- 質疑応答

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- 仕事で使えるAIライティングツール
- まとめ
- 質疑応答

生成AIを取り巻く環境

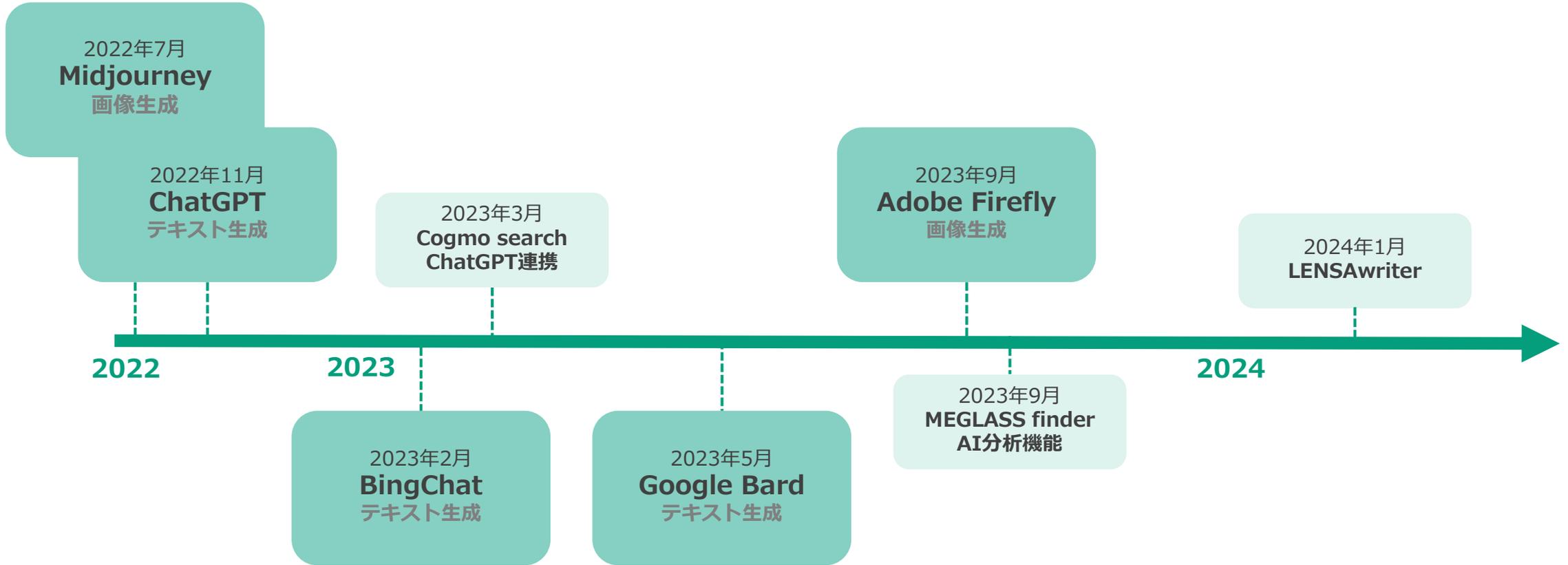
AIから生成AIが生まれるまで



生成AIとは、AIから生まれた機能のひとつを指す

生成AIを取り巻く環境

生成AI系のサービスは続々リリースしている



この1年間で各社から大量にリリースされている

生成AIを取り巻く環境

生成AIの特長

話しかけるような文章で指示できる



従来の検索エンジンのような単語区切りでの検索や、特別なプログラミング言語が不要です。自然な文章で話しかけるだけで、返答やコンテンツを作成します。

長文作成や画像作成にも長けている



テキストで指示するだけで、新しく長文のテキストを作成したり、送ったテキストに適した画像を生成したりできます。動画や音声を作成できるものもあります。

入力した内容から学習してオリジナルコンテンツを作る



既にあるデータベースからデータを抽出するだけではなく、利用者が入力した内容を学習して返答やコンテンツ生成に利用できます。これにより、独自性のあるコンテンツ作成も可能になります。

普及状況

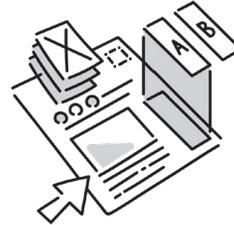
検索エンジンにも導入



Microsoft社のBingChatはブラウザの検索画面から利用でき、Web上のページを参照した回答を得ることができます。回答の参照箇所がどの部分かをかくにんすることも可能です。

【参考】
<https://webtan.impress.co.jp/n/2023/02/09/44282>

Adobe社でも利用



Adobe FireflyはAdobeのソフト上でも利用でき、商用利用も可能な画像生成AIです。写真の端からその先を生成したり、存在しない部分を補填したりすることもできます。

【参考】
<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2309/14/news131.html>

広告運用やクリエイティブ作成も自動化



Google広告のP-MAXキャンペーンでは、対象Webサイトと必要情報を入力するだけで自動的にクリエイティブを作成できるようになりました。生成されたクリエイティブに、人間が指示を与えることもできます。

【参考】
<https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00915/00006/>

課題

著作権上の課題



現状、AIが作成したコンテンツの著作権がどこに帰属するのかは明確になっていません。
AIで生成された画像を利用した漫画の著作権が認められないケースなどもあり、取り扱いには注意が必要です。
また、生成の際に参考として利用したデータが他社の著作権を侵害するおそれもあります。

学習における課題



幅広いデータから回答を探し出してくる生成AIですが、利用者が入力したデータも学習され、他の回答に利用されます。
社内情報を入力してしまい、情報漏えいにつながったケースもありました。
入力するデータの取り扱いにも注意が必要です。

生成コンテンツの信頼性



さまざまなデータをもとに、正解と思しき回答を導き出しますが、回答内容が全て正解だとは限りません。
普及度が低い情報などについて回答を求める際には、情報の正誤についてもチェックが必要です。

【参考】 <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/column/generative-ai/vol2.html>

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- **サイト更新の中でAIを活用できる箇所**
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- 仕事で使えるAIライティングツール
- まとめ
- 質疑応答

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

生成AIはサイト運用にも活用できる

原稿を作る

画像を作る

原稿を校正する

データをまとめる

さらに：コードを書く



Webサイト

サイトのさまざまなところに活用できる

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

テキスト作成

原稿を作る・校正する

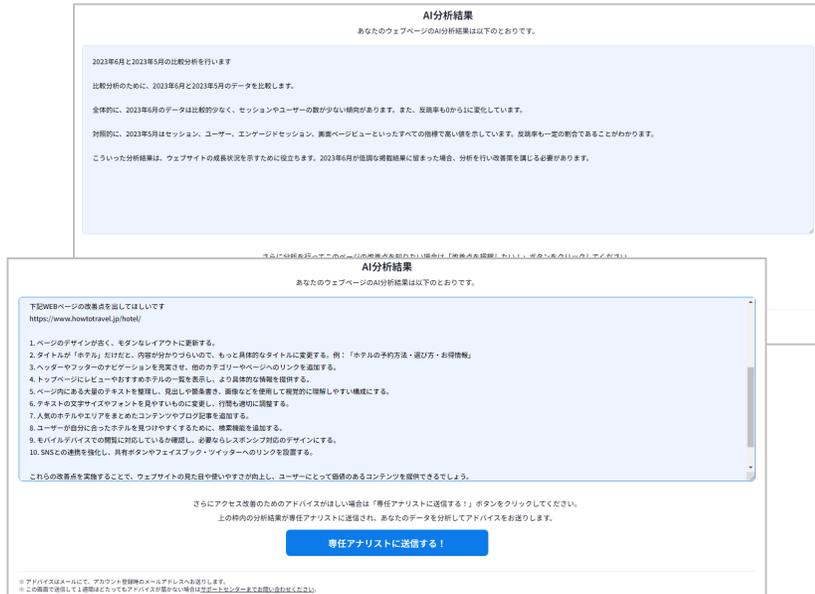
テキスト作成は得意中の得意。
要素をピックアップして体裁
や文字数を指定すれば、記事
原稿ができあがります。
また、校正を指示すれば、AI
で作成した記事から更に変更
点をまとめることも可能です。



Webサイト

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

データまとめ



例:MEGLASS finderのAI分析



Webサイト

データをまとめる

数値データ等を入力することで、データまとめを任せることも可能です。サイトに掲載する統計データの作成や、表計算での作業を軽減できます。

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

画像生成

画像を作る

画像生成系のAIを使用すれば、キービジュアルやアイキャッチに使う画像も作成できます。テキストで指定することでプロ顔負けのイラストが描けたり、写真やイラストの空白や外側を補填したりできるものもあります。



Webサイト

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

コードのチェック(あるいは生成)

さらに…
**コードを書く・
チェックする**

実は、指定をすればコードを書いたり、書いたコードをチェックしたりすることもできます。

運用ではなく、サイトの制作そのものにAIが活用されるケースもあるでしょう。



Webサイト

サイト更新の中でAIを活用できる箇所

利用範囲は広くて便利、ですが……？

原稿を作る

画像を作る

原稿を校正する

データをまとめる

さらに：コードを書く



Webサイト

企業や公共団体が仕事のサイト運用に利用するには注意が必要

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- **仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント**
- 仕事で使えるAIライティングツール
- まとめ
- 質疑応答

仕事で生成AIを使用する時のポイント

生成AIを使用する際の懸念点

入力した情報を学習されてしまい、
情報漏えいにつながるケースがある



生成AIは入力した情報も学習データとして利用します。社外秘の情報を入力する、会議の議事録作成に利用するなどの使い方をすると、社内の情報が学習されてしまい、情報が流出するおそれがあります。

【参考】 <https://pc.watch.impress.co.jp/docs/news/yajiuma/1490904.html>

知らず知らずのうちに他社のコンテンツを
侵害するケースがある



キーワードを指定してサイトの記事などを作成する場合、同じキーワードで書かれた既にWeb上にある記事も参考にされます。他社の記事で既に使われている言い回しそのまま出てきたり、意図せずコピーするような形になってしまったりすることもあるので注意が必要です。

【参考】 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231228/k10014302081000.html>

仕事で生成AIを使用する時のポイント

懸念点はどう回避できる？

入力した情報を学習させない設定 (オプトアウト)にする



例えばChatGPTを利用する場合、入力した情報を学習に利用しない設定(オプトアウト)があります。また、サービスによっては、入力した内容を学習に利用しないように設定がなされている場合もあります。かならず、利用したいサービスの利用規約を確認しましょう。

生成されたコンテンツが他コンテンツと 酷似していないかチェックする



設定したキーワードや、同内容の記事を確認することで思わぬ著作権侵害や剽窃にあたらないかをチェックします。しかし、Web上のコンテンツ全てをチェックすることは到底できず、人がチェックするには時間がかかりすぎます。

仕事で生成AIを利用する時のポイント

こんな条件のサービスだったら使いやすい

1

入力した情報を学習に利用されない

2

類似チェックで予期せぬ著作権侵害を防げる

3

さらに……難しい指示が必要ない

仕事で生成AIを利用する時のポイント

こんな条件のサービスだったら使いやすい

1

入力した情報を学習に利用されない

2

記事作成は、AIの力で劇的に加速する。
AIチェックで著作権侵害を防げる



3

さらに……難しい指示が必要ない

3つの条件を満たすサービスをリリースしました！

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- **仕事で使えるAIライティングツール**
- まとめ
- 質疑応答

仕事で使えるAIライティングサービス

記事作成は、AIの力で劇的に加速する。 Wt LENSAswriter とは？

ジャンルやトーン、入れたいキーワードを入力すると……

AIが記事作成！
類似チェックや校正も可能

記事の作成

記事のジャンルを選ぶ 必須

お知らせ・ニュースリリース コラム・ブログ・SNS サービス・製品紹介

記事のトーンを選ぶ 必須

明るい まじめ・フォーマル ユニーク・フレンドリー やわらかめ（絵文字使用）

記事の文字数を選ぶ 必須

40文字程度 (用途例：ページタイトル) 100文字程度 (用途例：ページ説明文) 140文字程度 (用途例：短文型SNS) 300文字程度 (用途例：記事リード文) 500文字程度 (用途例：コラム) 800文字程度 (用途例：その他)

記事のテーマを入力する 必須

オウンドメディアの未来について

記事作成_20231116175719

ジャンル お知らせ・ニュースリリース トーン まじめ・フォーマル 文字数 500文字程度 テーマ オウンドメディアの未来について

Normal B I U 〰 < > ≡ ≡ ≡ ≡

【ニュースリリース】未来のオウンドメディアの可能性について 近年、企業ならびに個人の間で注目を集めているオウンドメディア。その重要性和影響力が増す一方で、その未来について考えることが求められています。オウンドメディアは、企業が自ら手掛けるメディアであり、自社の商品やサービスを自由に伝えることができるため、堅固なプラットフォームとしての役割を果たしています。今後は、その価値を最大限に引き出すために、より具体的かつ実用的な活用が求められます。まず、信頼性の保証が更に重要となります。オウンドメディアが情報を提供する上で信頼性が重要な理由は、消費者が情報源から受ける影響を最大化するためであり、それによって顧客ロイヤルティを確立することが期待できます。透明性の高い情報公開や、消費者の反応をすくに取り入れる双方向性を持つことで、信頼性を高めることが可能となります。次に、パーソナライゼーションが重要となります。AIなどのテクノロジーの進歩により、各個人の消費者に合わせた情報提供が可能となりつつあります。このような個々に対するオーダーメイドの情報提供は、消費者の満足度を高め、リピート顧客を増やすことに繋がります。最後に、マルチチャネル化も欠かせません。一つの情報を、記事、動画、インフォグラフィックなど、様々な形で発信することで、より多くのユーザーに対応することが可能となります。これにより、メッセージの到達率を最大化することが可能となります。以上のように、オウンドメディアの未来は、信頼性、個別化、マルチチャネル化によって構成されると考えられます。これらの要素を最大限に活用し、多角的なオウンドメディアを形成することが、今後の競争力を保つには欠かせないこととなるでしょう。オウンドメディアは、まだまだ進化し続けるフィールドであり、その可能性は未知数です。これからのオウンドメディアの展開に、どうぞご期待ください。

作成者：中村 作成日：2023年11月16日 文字数：814文字

記事の作成画面に戻る コピーする お気に入りに登録

生成AIを利用した、記事作成特化型のAIライティングサービス

仕事で使えるAIライティングサービス

LENSAwriterの特長

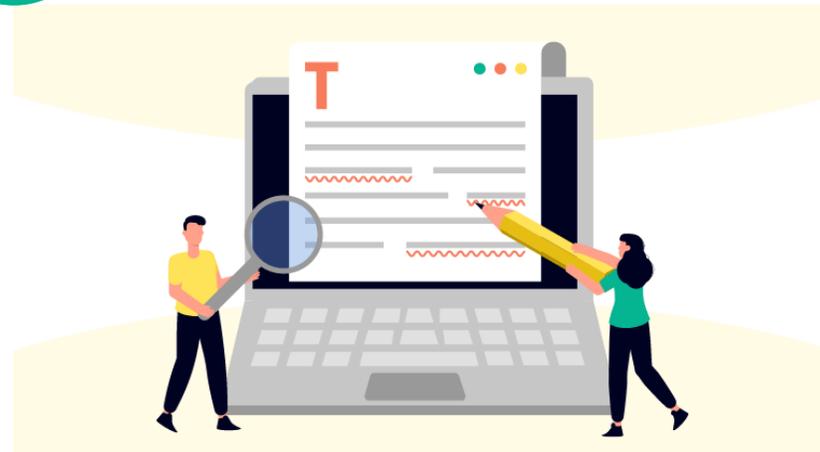
feature
01



用途に合わせた記事作成

キーワードや参考URLを設定するだけで、指定した文字数の記事を作成してくれます。

feature
02



記事の類似チェック

生成された記事がWeb上の別の記事と類似していないかチェックします。

仕事で使えるAIライティングサービス

LENSAwriterの特長

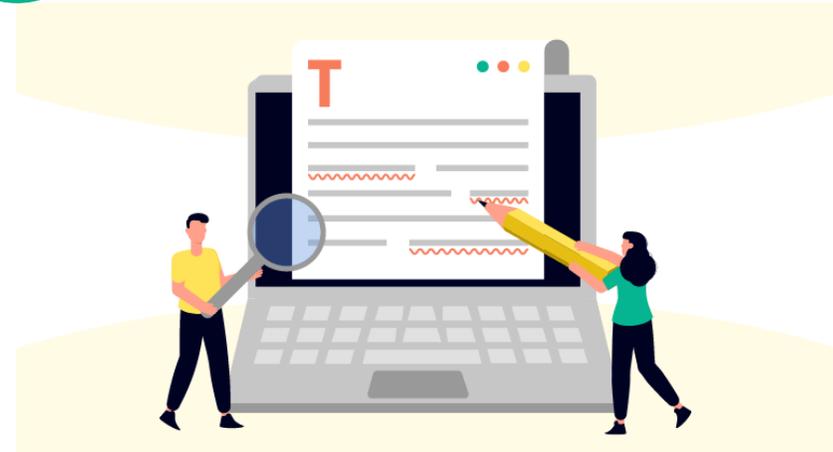
feature
03



共有記事編集

お気に入りをつけた記事を複数ユーザーで編集できます。

feature
04



PDFファイルからの記事作成や要約

リリースやニュースなどのPDFファイルを要約して記事化できます。

仕事で使えるAIライティングサービス

他の生成AIと何が違う？

1

入力した情報を学習に利用されない

▶ Azure OpenAIのAPIを利用しているため、入力した内容を学習されない

2

類似チェックで予期せぬ著作権侵害を防げる

▶ 類似チェック機能で既存コンテンツと酷似した部分を指摘できる

3

さらに……難しい指示が必要ない

▶ 記事のトーンや文字数をボタンで指定でき、直接指示する必要がない

サイトのお知らせやコラム作成、社内資料の要約などに安心して利用できるサービスです

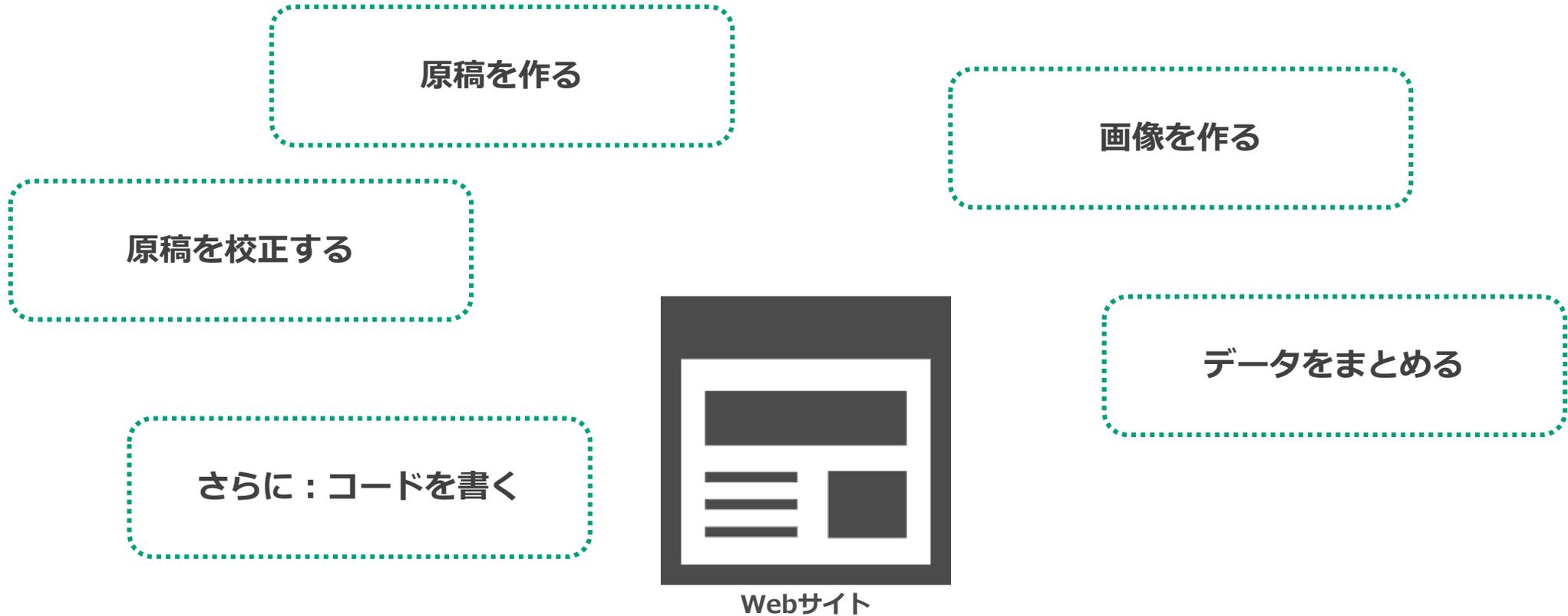
Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- 仕事で使えるAIライティングツール
- **まとめ**
- **質疑応答**

まとめ

生成AIはサイト運用にも活用できる



さまざまなところに活用できる

まとめ

仕事で利用する際には、3つのポイントに注意が必要

1

入力した情報を学習に利用されない

2

類似チェックで予めせぬ著作権侵害を防げる

3

さらに……難しい指示が必要ない

まとめ

記事作成なら、記事作成用のAIライティングサービスも要検討

The screenshot displays the LENSWriter website interface. The header includes the logo 'LensaWriter', navigation links for '特長', 'プランと料金', 'セミナー', 'ご利用ガイド', 'お問い合わせ', '資料ダウンロード', '無料トライアルをはじめる', and 'ログイン'. The main content area features a large heading: '記事作成は、AIの力で劇的に加速する。' (Article creation is dramatically accelerated by AI power). Below this, it states '時間短縮、ビジネス加速。仕事でつかえる記事作成サービス' (Time reduction, business acceleration. Article creation service usable in work). Two buttons are present: '資料ダウンロード' (Download materials) and '無料トライアルをはじめる' (Start free trial). The interface also shows a sidebar with '記事の生成' (Article generation) and 'お気に入り' (Favorites), and a main panel with '記事の作成' (Article creation) options, including '記事のジャンルを選ぶ' (Select article genre), '記事のトーンを選ぶ' (Select article tone), '記事の文字数を選ぶ' (Select article word count), and '記事のテーマを入力する' (Enter article theme).

2024.01.24 記事作成を劇的に加速させるAIライティングサービス「LENSAwriter（レンサライター）」をリリース **NEW**

「無料トライアルをはじめる」よりぜひお試しください
サービスサイト▶ <https://www.lensa-writer.jp/>

ご契約者様キャンペーン：LENSAwriterエントリープラン無料体験

本セミナーにご参加・ご希望をいただいた方は、
エントリープラン(通常月額8,000円(税別))を期間限定でご利用いただけます

ご利用の流れ

STEP1
申し込み



アンケートにてご利用希望の旨をお知らせください
まずは無料登録のご案内をさせていただきます

STEP2
プラン
変更



当社でプラン変更を行います。

STEP3
3月末まで
利用可能



2024年3月31日まで、トライアル期間延長として
エントリープランをご利用いただけます

LENSAwriter エントリープランの特長



記事作成



記事校正



記事要約



類似チェック

Contents

目次

- 生成AIを取り巻く環境
- サイト更新の中でAIを活用できる箇所
- 仕事で生成AIを活用する時の注意ポイント
- 仕事で使えるAIライティングツール
- まとめ
- **質疑応答**

次回以降のウェビナー予定

■今後のウェビナー予定

1 2月7日(水) 14:00~15:00

伊藤ハム米久ホールディングス(株)様、YOUテレビ(株)様にインタビュー！ 成果創出に向けたWebサイトの活用方法について

本セミナーでは、日ごろよりinfoCMSをご利用いただいている伊藤ハム米久ホールディングス株式会社様、YOUテレビ株式会社様2社のご担当者様にご登壇いただき、周辺サービスも含めた実際の運用状況や、施策実施による効果などについてお話しいただきます。自社での運用のヒントを探している方はぜひご参加ください！

